

## 第61回例会

# 原理をもとに実践するということ

## —「風越コラボ」参加報告会—

話題提供：鈴木 綾乃さん (横浜市立大学)

■ 日時 ■

**2019年5月18日 (土) 14:00~16:00**

■ 会場 ■

**早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 502教室**

※申し込み不要。当日、直接会場にお越しください。

「風越コラボ」とは、【一人ひとりが「自由だ、幸せだ」という実感を持つ社会のために、どんな学校や教育がありえるのか、多様な人たちが集まって試行錯誤しながら実験する場 (Collaboration Laboratory)】で、第1期が2018年6月から12月にかけて行われました。話題提供者はこの第1期風越コラボに参加し、教育に関わるさまざまな人と交流・探求を行いました。第61回例会では、この風越コラボに参加して感じたことをお話し、その上で、「原理をもとに実践すること」について皆様と議論したいと思います。

哲学者・教育学者であり、軽井沢風越学園設立準備財団理事の苦野一徳は、わたしたち人間は〈自由〉になりたい、すなわち「生きたいように生きたい」という欲望を持っており、〈自由〉になるためには他者の〈自由〉もまた承認しなければならない(=〈自由の相互承認〉)、そして「〈自由〉と〈自由の相互承認〉の感度を育むことが、教育の原理である」と言います(苦野2011、2014など)。その一方で、〈自由〉と〈自由の相互承認〉の原理を、自分の理念を都合よく補強するのに使ってはいけない、「自分の実践は、本当に〈自由〉とその〈相互承認〉を実現するものになっているのだろうか。そう問い続けることが重要です」とも述べます(第1回風越コラボレポートより)。

では、言語教師はそれぞれの現場で、その原理をどのように実践すればよいのでしょうか。今行っている実践は、〈自由〉と〈自由の相互承認〉を実現する／その感度を育むものになっているのでしょうか。〈自由〉と〈自由の相互承認〉の原理を、都合よく使っていないのでしょうか。

以上のことを、風越コラボで出会った方々から話題提供者が学んだことや、風越コラボ終了後のさらなるコラボレーションの様子などをご報告した上で、議論できればと思います。

お問い合わせ

project@alce.jp (言語文化教育研究学会 企画委員会)

